

地域包括ケアに関する取組み

中央区

〇概況

令和7年3月末現在

【人口動態、地形、生活環境等の地域特性】

中央区は、福岡における屈指の商業集積地である天神を擁し、数多くの商業施設が立地し、交通の便も良い。中央区の面積は15.39km²で7区のうち最も狭く、人口は本市7区のうち2番目に少ないが、人口増加率は2番目に高く、人口密度は7区の中で最も高くなっている。約9割の住民が集合住宅に居住しており、単身世帯が6割と多い。

【高齢者の状況（高齢化率や介護保険受給者状況）】

高齢化率は低いものの、高齢者人口は年々増加（特に後期高齢者人口が増加）。地域によっては高齢化率が50%に近い校区もあり地域差がある。65歳以上の人がいる世帯をみると、単身世帯が43.1%、高齢者夫婦のみの世帯が26.3%であり、高齢者のみの世帯率は市内で1番高い。介護認定状況は、認定者数も年々増加しているが、要介護度は要支援や要介護1の軽度の認定者が約6割と多い。

【社会資源（介護サービス事業所や医療機関、地域コミュニティの状況）】

日々の地域保健福祉活動からは、天神周辺を中心に近隣との関わりを好まず家族とのつながりも弱い独居高齢者が目立つ等、都市部が抱える高齢者支援問題がうかがえる。また、医療機関等は利便性もよく多数存在するが、地域外からの受診も多く地域住民に特化した連携体制はとりにくい。

人口（人）	194,923
高齢者数（人）	38,501
高齢化率（%）	19.8%
小学校区数 （自治協議会数）	12 (14)
いきいきセンター 圏域数	5

〇地域包括ケアに関する現状と課題

住民の転出入も多く、住民同士のつながりも希薄になりやすく、オートロックマンションの居住者も多いため、地域での見守りも行き届きにくく、安否確認や見守りが困難な場合がある。身寄りやキーパーソン不在の方は、認知機能が低下した際、生活状況が把握しづらく、生活が破綻しても気づかれにくい。早期に相談機関へつながるよう、地域や高齢者と日常的に接する機会の多い事業者などとも連携し、見守りの輪を広げ、相談機関と連携が取れるような体制づくりが必要。

高齢者が集う場所としてふれあいサロンやカフェ等の場づくりは進んでいるものの、出かけることを好まない方や人との関わりを好まない方への支援について心身の機能低下が問題化する前に働きかけをどうするかが大きな課題である。住民が元気なうちから人生の終い方について自ら考え、介護予防や介護の備えに取り組むための啓発が必要である。

区内の介護事業所は、事業所数が少なく、少人数の事業所も少なくない。事業所間の横のつながりや資質向上を目的とした事業所ネットワークは2圏域で立ち上がったが、全圏域では立ち上がっていない。中央区では、専門職間の連携強化と、各団体での次世代の担い手育成を目的とした任意の専門職団体である「中央区医療と介護のまちづくりプロジェクト」が、縦断的に地域ケア会議と関わり、協働してシステムづくりを進めている。また、市民啓発として、専門職が地域に出向いて在宅医療の推進や介護予防等のテーマで出前講座等を実施している。

1. 令和7年度取組みの中で、特徴あるもの

取組内容

〇中央区における地域包括ケアシステムの推進

（1）中央区の認知症になっても住みやすいまちづくり事業

①高齢者と接点のある事業者との共働による見守りのネットワークづくりや連携ツールの活用

認知症高齢者と日常的に接する機会の多い、集合住宅の関係者をはじめ、金融機関やコンビニ等の事業者等と共同して作成したパンフレットを活用しながら、関係事業者との共働による見守りのネットワークづくりを進める。



②高齢期に向けての備えの啓発

元気なうちから医療や介護など高齢期の様々な課題に備えるため、「人生100年時代に備える講座」と題して、講座を実施する。
令和7年度は、終活、認知症、介護予防等について、全3回開催。



（2）中央区専門職による啓発と地域連携の強化

①「在宅医療と介護の出前講座」

医療と介護のまちづくりプロジェクトメンバーの専門職団体が、在宅医療・介護に関する市民啓発について地域向けの出前講座を実施する。

②医療機関や介護サービス事業所等の地域連携の充実

各圏域や校区等で開催する、医療や介護、ネットワークづくり、高齢者の見守り等に関する講座や会議等へ、地域の医療機関や介護サービス事業所等からも参加や協力をいただき、顔の見える関係や連携体制づくりを進めていく。

〇健康づくり・介護予防の啓発と場づくり

（1）健康パークステーション事業

市民に身近な公園にロコモ予防等につながる健康遊具を設置し、健康づくり・交流の場としての活用を推進している。
1号地：梅光園緑道（笹丘校区） H31.3月完成
2号地：福浜公園（福浜校区） R3.3月完成



（2）介護予防の拠点づくり

よかトレ実践ステーションの創出、活動支援を行う。高齢者が身近なところで健康づくりができるようよかトレの普及啓発を行う。

2. 令和6年度の取組み状況

①個別支援における成功事例、課題など（個別支援会議の傾向など）	
介護予防型個別支援会議以外の検討事例の約6割が認知症や精神症状があり、キーパーソン不在や経済困窮、金銭管理の問題など様々な課題があった。金銭管理や成年後見制度の利用が必要な方には、社会福祉協議会や弁護士なども含めて支援方針を検討した事例もあった。個別支援会議を通し、支援者同士が情報共有を図り、課題解決に向けた支援方針の検討と役割分担を行い、支援体制の整備を行っている。	
個別支援会議開催状況	・会議回数：74回（うち介護予防型個別支援会議10回）

②住民同士の助け合い・支えあい活動	
【認知症になっても安心して暮らせる地域づくり】【災害等をみすえた見守り活動】 ・「認知症をささえるやさしいまちづくり講座」の実施。 ・見守りマップを更新し、日頃からの見守りについて町内ごとに情報共有や意見交換を実施。 ・町内ごとに分かれ要支援者などに声掛け訪問する防災訓練の実施。（写真はR5年度撮影分） 【集合住宅住民に対する見守りの啓発】 ・福岡市等が主催するマンション管理基礎セミナーの参加者に対して、見守り活動についての啓発チラシを配布。 	
高齢者地域支援会議開催状況	・会議開催校区（地区）数：9校区（地区）、延べ回数：11回 ・検討内容：高齢者の実態・課題についての意見交換、地域で高齢者を支えるための解決策の検討、取組

③在宅医療・介護連携や多職種連携の推進に向けた取組み	
■中央区医療と介護のまちづくりプロジェクト会議 ・「中央区医療と介護のまちづくりプロジェクト」は、中央区地域包括ケアシステム構築に関して縦断的に関わり、各専門職種団体の情報共有・連携、今後の各種団体での人材育成を目的としている。また、在宅医療・介護に関する市民啓発や介護予防等について地域向けの出前講座も実施している。 【在宅医療・介護の出前講座】 テーマは、「在宅医療と介護」「口腔ケア」「低栄養予防」「病院受診やお薬のこと」「認知症」「介護保険」など。専門職が地域に出向いて講座を実施する。 医療と介護のまちづくりプロジェクト会議 構成団体 医師会・歯科医師会・薬剤師会・理学療法士会・作業療法協会・医療ソーシャルワーカー協会・介護支援専門員連絡協議会・看護協会・訪問看護ステーション会・栄養士会  【圏域連携会議】 ・各圏域の地域課題に沿って、多職種連携について意見交換を行った。テーマは「100歳になっても住みたいまち」「地域での見守りについて考える」「さいごまで自分らしく暮らすために～在宅医療・ACP～」など地域課題に応じた内容で実施。 【多職種連携研修会】 ・全3回、オンライン開催。医療介護の多職種から、多くの参加があった。 <内容> ・第1回 講演会「ICTによる多職種連携」 81名 ・第2回 講演会「患者を守る自分を守る～ペイシェントハラスメント対策」 86人 ・第3回 講演会「複合課題・身寄りなしの困難事例」 72人 【ケアマネジメントに活かすACP研修会】 ・区内のケアマネジャーを対象に、ACPに関する研修会を開催。ACPIに関する基礎知識とACP実践について対談形式で体験談を共有。もしもの時について話し合うことができるよう、ロールプレイを交えて学習した。 参加者：区内の居宅介護支援事業所 24人	
圏域連携会議開催状況	・会議回数：3回 ・内 容：高齢者支援や見守り体制、在宅医療・ACPなどをテーマに多職種間や地域との連携について意見交換。

④区レベルの取組み（特徴ある取組み）	
【在宅医療と介護の出前講座】9回 在宅医療、口腔ケア、低栄養、薬の管理、介護保険などの出前講座を実施。	
【健康パークステーション】梅光園緑道や福浜公園の健康遊具を使って、地域住民への介護予防の啓発。	
区地域包括ケア推進会議開催状況	・区地域包括ケア推進会議（1回） ・専門部会 ①在宅医療・介護部会（1回）「地域包括ケアに関する取組状況、身寄りなし・キーパーソン不在の高齢者への支援体制について意見交換」②権利擁護部会（1回）「中央区の権利擁護の取組み、事例検討」③生活支援・介護予防部会（1回）「地域包括ケアに関する取組状況、中央区の認知症になっても住みやすいまちづくり事業や介護予防事業の取組みについて意見交換」

(2) その他、在宅医療・介護連携の推進に関する取組み、事業所ネットワークの活動等

取組	具体的内容
在宅医療に関する市民公開講座	講演会「訪問看護ができること～自分らしく生きる～」、相談会 117人参加
中央区ケアマネ会	運営委員会で活動について協議しながら、CM向け研修会を年4回実施。2月の研修会時に、権利擁護担当主査より虐待対応について講話。
圏域ケアマネ会	圏域ごとに5つのケアマネ会があり、お互いのスキルアップや地域貢献に努めている。
中央区訪問看護ステーション連絡会	ステーション連絡会に参加。ステーション同士の顔の見える関係づくりやスキルアップにつながっている。
事業所ネットワーク活動	第3・5圏域で事業所ネットワークが立ち上がり、多職種連携や地域活動への参画に取組んでいるが、他の圏域も事業所の連携による相談会などの取組みを実施している。
中央区地域密着型サービス事業所の集い	区内の事業所間の連携を促進し、安心して暮らせる地域づくりやサービス提供の質の向上を図る目的で研修会を年2回実施。
弁護士、司法書士、包括職員との勉強会	虐待や処遇困難の事例検討を行い、弁護士や司法書士と意見交換を行った。
消費生活センターと包括職員との意見交換	消費生活センターへの相談事例などをもとに消費者トラブルについて講話があり、意見交換を行った。